

令和5年度 杉並区立杉並第二小学校 経営・評価計画「自己評価報告書」・「学校関係者評価報告書」

校長 新井 晶子

杉並区の教育ビジョン		「みんなのしあわせを創る 杉並の教育」 ◇学び合い、信頼をつくり、共に生きる ◇ちがいを認め合い、自分らしく生きる ◇誰もが社会の創り手として生きる
学校の教育目標		『やさしくなる しあわせになる』
経営目標		「皆で創り 皆が誇る 未来志向 杉並第二小学校」 ○全ての子供たちを全教職員で支援する ○学校をオープンにして多様な風を入れる ○失敗を恐れずに試行錯誤し、皆で協働
目指す学校像		○児童は、学び合い高め合って、学力・体力を向上させ、豊かな人間性を培う。○教職員は、教育の質の一層の向上をめざして教育実践を創意・工夫し、研究・研修に励む。○保護者は、児童を健やかに育て、学校と連携・協力して児童の教育を進める。○地域住民は、学校や家庭と連携して、児童を地域の一員として育てる。
目指す児童像		○自分でよく考えて、行動する。 ○多様さを認めて、人を大切にする。 ○自分の中に、「やさしさ」を育てる。
目指す教師像		①自らよく考え、授業を工夫し展開するなかで、個々の児童に、わかる喜び、できる喜び、問題解決する喜びが自信にかかる学びになっていくよう、日常の授業の質の向上に努める教師。 ②ICT等の教育環境が変化する中で、その変化を楽しみ、教員相互に学び合い、支え合い、高め合うことができる教師。 ③保護者、地域の願いを共感的に聞き取るとともに、積極的な情報発信を行い、学校への理解・啓発を図り、児童を家庭との密なる連携ができる教師。

学校関係者評価委員会委員	
委員長 堀 一男(CS)	
委員 中島 健(CS) 広松 茂(CS) 萩上 健太郎(CS) 神戸 朱里(CS) 中原 隆友(CS) 後藤 那(CS)	
橋谷 千恵(CS) 石渡 淳元(CS) 幅山 優子(CS)	
評価	
5 優れている	
4 良い	
3 普通	
2 もう少し	
1 悪い	

区分	重点目標	目標実現のための方策	評価指標・評価基準	令和5年度 経営計画・評価計画			評価	学校関係者評価委員
				結果と成果	教員 肯定率	評価		
未来志向	未来志向で子供ファーストの教育活動を推進する。	○教育目標「やさしくなる しあわせになる」を掲げ所として、全ての教育活動が子供の目標を大切にした子供ファーストの教育活動となるように見直す。「やさしさ」や「しあわせ」について、一人一人が考えを深める。 ○文書記録、調査、出欠連絡等のデジタルシステムを継続し、学校DX(デジタルトランスフォーメーション)化やオンライン学習の準備を推進する。 ○創立140周年に向けて、子供たちの想いが生かされる周年記念事業となるように準備を進める。	○全校朝会、学校だより、HP、保護者会での説明会において全校へ啓発した。また兄弟学年での活動やボランティア活動をおとおしてやさしさとしあわせについて考えを深めた。 ○保護者あて各種通知や調査はシェアポイントを活用しメール配信、出欠連絡はフォームでの運用、希望する欠席児童へのオンライン授業配信を実施している。 ○140周年キャラクターを募集・作成したり、昔の杉二小生への質問レターを作成したりして、地域へ目を向ける意識が高まつたが、全体に浸透しているとはいがたい。	93%	4	3.9	○教育目標「やさしくなる しあわせになる」については、掲示や学年だより等を通して十分行き渡っている。 ○コロナ禍による良い意味でのオンライン化が浸透し授業だけでなく、学校と児童・保護者のコミュニティが活性化し、児童の未来志向が推進されつつある。 ○教育目標をもとに、教育活動の見直し、DX化の推進、140周年事業の推進を着実に実施できている。 ○様々な場面で先生方の教育目標への思いを感じることができた。 ○変化を恐れず前向きな姿勢で工夫を凝らしている。	学校関係者評価委員
校舎改築	児童の安全を第一優先に、教育活動を保障する。	○校舎改築工事に伴う登下校や学校生活について、工事業者や教育委員会と連携し、児童への安全指導や交通指導員の配置等、適切に対応する。 ○新校舎の施設設備計画、引越し作業、既存校舎の施設設備の活用について、先を見通して総密な計画を立てて、教育活動を保障する。 ○水泳指導については、教育委員会と連携しながら、民間施設や専門コーチのもとでの指導を継続する。	○新校舎への通学路選定にあたり、児童の安全を確保するため保護者、警察、土木事務所、教育委員会等と連携し、交通指導員を増員することができた。 ○野球場へは保護者、水泳指導への引率には学校支援本部の支援を受けることができた。 ○月定期の改築会議に参加し、教育委員会とも連絡を密にとりながら、引っ越し計画を進めたが、タイトなスケジュールであった。 ○水泳指導は昨年度より1回多く全学年全学級年2回から3回の実施をすることができ、天候に左右されることなく水泳に親しむことができた。	93%	4	4.1	○校舎改築工事に伴う登下校のルートに関してはよく実地検分して安全確保に余念がなかった。施設設備計画、引越し作業、既存校舎の施設設備の活用について、組織的・効率的に推進していた。 ○ブルの使用不可をチャンスとして、民間のマンパワーを活用して前向きな水泳指導の実践ができた。 ○通常の業務をしつつ、新校舎引っ越しの準備など、限られた時間の中でも、児童の安全と教育活動が確保できた。	学校関係者評価委員
心を育てる	「青少年赤十字」「SDGs」を推進し、心の教育に努める。	○青少年赤十字加盟校として、「ありがとうプロジェクト」「あいさつ運動」「1円玉募金」「クリーンアップ作戦」等に取り組む。 ○「し」せい「あいさつ」「わ」らい「せ」いとん を「杉二のしあわせの風」として、学校全体で達成できるようにする。 ○各学級で起きているいじめを的確に認知し、情報の共有化を図り、いじめの早期発見、早期解決に向けた教育相談体制を強化する。「いじめの認知件数が多いのは、教職員の目が行き届いている証である」	○各種ボランティア活動以外にも、ユニセフ募金等にも取り組んだ。特に「あいさつ」運動に関しては、高学年になるに従い、場に応じたあいさつ等も意識できるようになつた。一円玉募金についてはユニセフ募金を実施した関係上中止となつた。 ○「あわせの風」は全校朝会で啓発し、学級指導を中心で指導を継続した。 ○6月までのいじめ件数は19件、11月までは39件、解消した件数は29件、対応中は10件である。記録を詳細にとりながら、組織としてより迅速な解決を図るようしている。	89%	4	3.6	○いじめの「見える化」の取り組みが進んでいると感じる。一方、あいさつに関しては、学校訪問時にあいさつをしてくる児童が少ない印象だった。学校を行った際、挨拶ができることが少なくなったと感じる。 ○ボランティア活動等については計画変更があつたが、変更後の計画を実施できている。 ○いじめの早期発見には、保護者の方々の「ちょっと子どもたちの様子で気になる」ということを先生方にすぐに相談できる雰囲気は大切。遠慮してしまう保護者が多い。	学校関係者評価委員
学びに向かう力	1人1台のタブレットPCを積極的に活用し、学びに向かう力をつける。	○1人1台のタブレットを有効活用し、「いつでも、どの教室でも、どの教科でも」を合言葉に、ICT(1人1台タブレット、電子黒板、デジタル教科書、プロジェクター等)を活用した授業を推進する。 ○ラーニングピラミッドの理論からペア学習、グループ学習を充実させ、話し合いの活動を活発化させるとともに、授業のねらいを明確にし、児童にとって深い学びとなるような授業展開を図る。 ○研究・研修委員会で、学びの個別化・探究化・協同化を視点に、授業改善(学びの構造転換)を図る。また、異学年交流を生かした取り組みを行う。	○学習ツールとしてのタブレット活用が日常化し、学級閉鎖になった学級はすべてオンラインでの健康観察を通常実施、また高学年ではオンライン授業を配信し、児童の学びを保障した。 ○昨年度に比べ対面での授業の回数が格段に増えたため、教師対児童、児童対児童等の対話場面が授業の中で多くみられた。だが未だ教師主導の授業場面が多く、児童が主体的に学びを深めているとはいえない。 ○グループでの授業研究に、全員が参加できないことが課題となつた。時間の確保に努めたい。	79%	3	3.5	○指導要領に沿い教育を行う時に、過度なセキュリティー意識などで、「苦手」「あきらめ」にならない配慮が一番。ブロックが多いと聞いている。もっと有効に活用できればよい。個々のタブレットの使い方は向上している。 ○グループでの授業研究に、教員全員が参加できないことが課題。ネット利用のリテラシー指導などを含めてさらなる推進に期待したい。 ○他の学校に比べて、タブレットなど積極的に活用させていただいている。家庭学習や自主学習には有効。 ○より多くの児童が主体的に活動できるようにするために、教師の側の経験を積み重ね、スキルをアップしていく必要がある。	学校関係者評価委員
特別支援	一人一人を大切にした特別支援教育の理解と充実に努める。	○「全ての子供たちを全教職員で支援する」という方針のもと、生活指導夕会等で情報共有を行い、登校しきりや不登校、問題行動に組織的に当たる。 ○特別支援教育の「構造化」の考え方を、授業や生活指導、教室環境に生かしていく。(①見通しをもたらせる②見える化する③刺激を遮断する) ○特別支援教室(すくに教室)においては、巡回教員、特別支援教室専門員、スクールカウンセラー等と連携を図り、発達の特性に応じたきめ細やかな指導の充実を図る。 ○特別支援便り(くしだより)を発行し、保護者や地域への理解を図る。	○課題のある児童が上がつた場合には、その都度ケース会議を開き、組織的に対応をすることが年間十数回実施し、関係機関との連携を進めながら、児童の困り感に寄り添う指導を継続した。 ○年間2回実施される個人面談に巡回指導教員に同席していただきなど連携を強め、多角的に児童についての情報を保護者に伝えることができた。 ○巡回教員は担任との情報交換を行うだけではなく、通常学級の観察、支援も実施しながら、きめ細やかな指導を実施することができた。	100%	4	4	○まだ保護者の肯定率低い。 ○関係各者の連携が密にされている。 ○課題のある児童への対応について、教職員や関係機関との連携のもと取り組みを実施できている。 ○連携が取れていることがよくわかる。 ○以前に比べると特別支援教室へ通室できる人数が増えている。満足する工夫をこれから考へてもらいたい。	学校関係者評価委員
連携教育	小中一貫教育、幼保小連携、地域連携の充実を図る。	○東田中、東田小との小中連携では、1人1台タブレットPCを使った授業改善について、積極的に情報共有する。 ○第6学年による「学校見学」「図書館体験」「体験授業」等を計画的に実施する。 ○幼保小連携については、近隣10幼稚園、保育園、子供園との「学校体験等」の交流活動を実施する。	○7月5日に東田中学校において合同研修会を実施し、一人一台端末での学習ツールを活用した各教科における小中連携の情報交換を実施した。 ○9月に授業体験、1月には図書館体験を実施したが、今年度奉仕活動、職場体験の中学生の受け入れはなかつた。 ○管理職自ら子供園の保護者会において「新1年生の生活」を紹介し、その資料を他の幼稚園や保育園へ提供するなど連携を深めた。	81%	3	3.1	○情報交換や交流する機会が増えるといい。東田中学校との情報連携について随時報告を受けた。一貫教育の実現にはまだ時間がかかると思うが、情報連携等は継続実施してほしい。 ○他校においてインフルエンザ蔓延の時期に学校間の交流が行われたと聞く。時期の配慮、柔軟な運営が必要と考える。○地域で活躍する子の育成のために今後も工夫が必要。	学校関係者評価委員
体育・健康教育	体力向上と心の健康づくりに取り組む。	○校舎改築によって校庭使用が制限される中で、屋上や近隣施設を使った体力づくりや心のケアができるように工夫する。 ○学校保健委員会や三校合同保健委員会等、児童の健康に関する課題を明らかにし、学校全体の健康づくりの取組を行う。 ○学校給食運営協議会や給食試食会を開催するとともに、残菜率に着目し給食指導および食育の充実を図る。 ○普段の授業では椅子に座っていることが多いことから、授業中の姿勢を意識し、よい姿勢を保つことによって日常から体幹を鍛えるように、声がけをする。	○善福寺川緑地野球場、屋上等を活用し、日常的に身体を動かすよう意識させていた。体力調査の結果では、特にソフトボール投げが低い傾向が顕著になっていることが判明した。 ○今年度の学校保健委員会は年2回実施した「早寝早起き朝ごはん」アンケートの変容から本校の児童の生活習慣の実態を分析・考察することに変えた。今後書面にて全校に周知する予定である。 ○給食の残菜率は10%~15%あたりであるが、メニューによっての残菜率が高くなるため、偏食傾向を改善していく必要がある。	70%	3	3.1	○体力を高める遊びなど取り入れながら体力向上することを期待。 ○校舎建替えで校庭が使用できない不便さがある中、最大限の工夫をしている。 ○体力調査の結果もよく分析しているので引き続き体力増進に努めてほしい。 ○校舎改築などの要因がある中、体力づくりのためのさまざまな工夫が引き続きたされた。	学校関係者評価委員
特別活動	子供の自主的・実践的な特別活動を推進する。	○高学年への「あこがれ」、低学年への「やさしさ」をテーマに、集会やきょうだい学級等の異学年活動の取組を実施する。 ○委員会活動やクラブ活動、学校行事では、役割と責任を与え、責任をもつてやり遂げる達成感や、人のために役立つ充実感を味わうことができるよう事前・事後の指導を行う。特にクラブ活動では、クラブの成立、運営等を児童の創意のもとに実施する。 ○学校行事「杉二運動の日」、「音楽の日」を継続し、児童の活躍の場を増やす。	○集会がふれあいディだけではなく、運動の日、音楽の日などでお互い見合の活動を実施したこと、下学年は上學年への憧れ、上學年は下学年へのやさしさを意識できるようになった。 ○運動の日では6年生中心の進行、音楽の日では各学級の工夫されたMC等があり児童が主体的に学校行事に参加している姿が見られている。クラブ活動では高学年が運営することによって、責任感と達成感を得ることができ下学年の良きお手本になっている。 ○「運動の日」「音楽の日」では児童一人ひとりが活躍し、保護者からよく見えるように少人数開催を継続した。校庭ができるまでは、この路線で行く予定であるが、体育館が少し広めになる来年からは、人数を少し増やした方法で開催していく。	89%	4	4.1	○社会一般では、先輩が後輩を教えることは、当たり前のことはあるが、その体験を早くから体験できた意義は大きい。 ○児童の自主手活動を支援する保護者はともかく、有志によるボランティア活動が活発に行われている。 ○運動の日や音楽の日などの行事について、高学年が運営に関わる形で工夫した運営が行えている。 ○PTAやS4などと連携し、協力的かつ積極的な雰囲気づくりができている。 ○みんなで児童を見守る気持ちが、浸透してきているように思える。	学校関係者評価委員
開かれた学校運営	保護者や地域と共に創る「オール杉二」の学校創りを行う。	○「学校をオープンにし、新しい風を入れる」という方針のもと、PTAと連携し、保護者の理解や協力を得ながら、子供たちが安全で、充実した学校生活が送れるようにする。S4(杉二スクールサポートスタッフ)に積極的に支援をお願いする。また、学校公開週間に前期と後期の2回実施する。 ○学校支援本部と連携し、通常の授業や土曜授業において、質の高い授業や安全に配慮された授業を提供したり、学習環境の整備をしたりする。 ○学校運営協議会と連携し、様々な課題や対応を報告するとともに、理解や協力を得る。また、学校間係者評議会を実施する。 ○放課後等居場所事業(はっぴいタイム)の実施に当たり、各関係機関と積極的に連携する。	○S4の支援は学校公開日だけに限らず、学校行事、日常の授業の支援、校外学習の付き添いなどにも及び、支援本部と同じ働きを担っていることで、学校の雰囲気が保護者に伝わり、保護者が自分以外の子どもにも気付けるよう意識が変わってきた。 ○今年度、管理職・教員が地域行事(祭事やボランティア活動)、本校吹奏楽クラブの課外活動等十数回以上参加、また幼稚小中交流を保護者会参加を含め年間5回ほど交流を深め、地域を知ることができた。 ○今後、旧態依然とした学校運営協議会、学校支援本部の改革をし、地域・保護者が活発に意見を交わし合い、主体的に学校創りに係る組織づくりが課題である。	96%	4	4.1	○地域の中の「教育界」とのものと、地域本部やCSの施策が徐々に表れてきたと感じている。 ○学校行事やウインドバンドの活動で、PTAなどの保護者も一体となって協力していることは素晴らしいと感じている。 ○S4の支援も活発だと感じる。 ○S4の活躍がさまざまなよき影響をもたらしている。 ○他校と比べ、吹奏楽クラブを中心に地域との交流も盛んだと思われる。	学校関係者評価委員
働き方改革	教職員の働き方改革を推進するとともに、学び合い高め合う教職員を育成する。	○出退勤入力により各自の労働時間を把握し、ひと月当たりの残業時間の上限を30時間以内になるよう努力する。 ○教室、特別教室、職員室その他、整理・整頓・清潔・掃除の徹底を図り、業務の効率化を図る。 ○複数担任制(教科担任制、学年担任制、交換授業、専科教員等活用)に積極的に取り組むことによって、一人で抱えることなく、全教職員で全児童を支援するという働き方改革を推進する。 ○「東京都教師養成指定校」の指定を受け、教員を志す学生を積極的に受け入れるとともに、学び合い教え合いを通して、成長し続ける教職員を育成する。	○今年度は初任者を含め若手					